

問Ⅰ 下記の文を読んで、次の各設問に答えなさい。(注：法律の専門的知識を問うものではありません。)(配点50点)

(設問1)

下線部(1)について、筆者の考える歴史の「真実」と「事実」の違いとは何か、150字以内で説明しなさい。(15点)

(設問2)

下線部(2)の「歴史の政治利用がなぜ悪いのか」という問いに対する「歴史学からの答え」とはどのようなものなのかを端的にまとめた上で、下線部(3)において指摘される「歴史の司法化」の是非に関するあなた自身の見解を350字以内で述べなさい。(35点)

著作権法により公開していません

〔問Ⅰの文〕

出典：武井彩佳『歴史修正主義 ヒトラー賛美、ホロコースト否定論から法規制まで』（中公新書、2021年）i 頁～iii 頁、3 頁～10 頁、12 頁～13 頁、15 頁～17 頁、133 頁～135 頁、177 頁～178 頁、212 頁

ただし、出題に際して、見出しを省略し、漢数字を算用数字に変えている箇所がある。また、原文の略は〈中略〉と示している。

問Ⅱ 下記の文を読んで、次の各設問に答えなさい。(注：法律の専門知識を問うものではありません。)(配点50点)

(設問1)

下記の本文全体を読み、筆者の主張を350字以内に要約しなさい。(30点)

(設問2)

下線で示した箇所で、筆者は、現代の日本人が、〈未来の他者〉に対して著しく感度が鈍い原因として、〈我々の死者〉を喪失していることからであるとし、〈未来の他者〉への感度を高めるためにもトカトントンを克服しなければならない、と主張する。筆者がこのように主張する理由について、250字以内で答えなさい。(20点)

著作権法により公開していません

〔問Ⅱの文〕

出典：大澤真幸『我々の死者と未来の他者 戦後日本人が失ったもの』(集英社、2024年) 65頁～67頁、69頁～71頁、84頁～94頁

ただし、出題に際して、見出し及び傍点を省略し、漢数字を算用数字に変えている箇所がある。また、原文の略は〈中略〉、原文における引用の略は〔略〕と示している。